

こんにちは
日本共産党です

日本共産党流山市議団
高野 と も 7155-1683
いぬい 紳一郎 7159-2773
小田 桐たかし 7154-0878
徳増 記代子 7148-6871
市議団事務所
TEL/FAX 7157-6140

こみ袋有料化計画 9月議会提案断念！

流山市長は、来年度からごみ処理有料化を実施するために準備していた9月議会への議案提案を見送りました。市民のみなさんの世論と運動が、また一歩市政を動かしました。

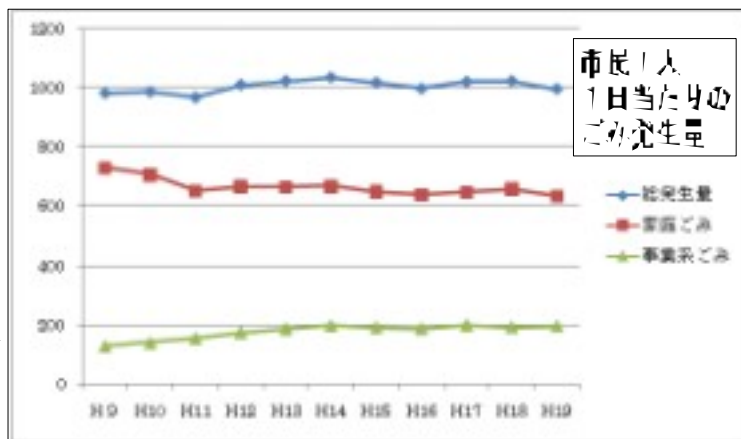
こみが減って

有料化の根拠がなくなった

市の説明は、平成19年度のごみ排出量が前年度と比較して641・45トン、一人一日当たりで27グラム（2・6％）減少。「このような状況と昨今の社会経済情勢の動向を見極めて、計画案の一部を見直すことにした」というものです。

これまで市は、「こみが増え続けている。

ごみを減らすために有料化する」と言ってきました。それなら、こみが減ったわけですから、有料化の根拠がなくなつたのではないのでしょうか。



さらに、増え続けているのは事業系ごみであって、家庭ごみは平成9年度をピークに減っています（グラフ参照）。市民にだけ負担を押し付けるのは、二重の意味で道理がありません。

まずやるべきことは 分別・資源化の徹底

有料化案は、可燃ごみから資源ごみまですべてのごみ袋の有料化で、1枚最大80円と県内でもトップクラスでした。

一方で、焼却炉には紙類、プラスチックなど

負担ばかりおしつける 有料化は白紙撤回を

日本共産党市議団は、かつて新焼却場建設反対運動をともにたたかいたみなさんとともに、宣伝や市長交渉を行いました。また、議会他会派に働きかけて「9月議会に条例提案は拙速すぎる」との意見で一致したことも大きな力になりました。

しかし、市長は「ごみ処理有料化を含む施策を検討する」と根本的には有料化をあきらめていません。引き続き、有料化の方針を白紙撤回させ、環境にやさしいごみ行政実現のために、ごいっしょに力を合わせましょう。



しんぶん
赤旗

日刊 毎月2,800円
日曜版 毎月800円

コメントでも、「有料化の前にやるべきことがあるはずだ」「資源ごみの袋まで有料はおかしい」「年寄りの負担がたいへん」など、多くの怒りと疑問が突き付けられました。